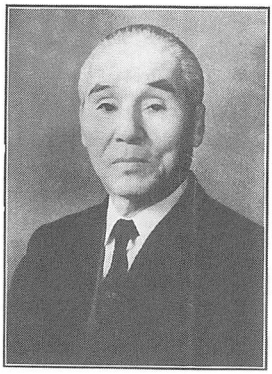
王丸勇先生の逝去を悼む

中山茂春

日本医史学会名誉会員王丸勇先生は平成七年八月十九日に逝去された。明治三十四年三月二十八日生まれだから満九十五歳であった。

先生は福岡に生まれ、旧制修猷館中学、旧制第六高等学校を経て九州帝国大学医学部に学ばれた。幼少期より柔道をされ、旧制六高に入学されたのも当時は六高が柔道の名門として名を覇せていたからと聞いている。九帝大では柔道の大将として有名であった。大正十五年に九帝大を卒業、精神・神経科に入局され同大講師を経て昭和四年十一月に九州医学専門学校（現在の久留米大学医学部）の教授に就任、二十八歳の若さであった。脳の組織病理学と神経病学が専門の研究領域で、クロイツフェルト病とクレペリン病の我が国での最初の発見者として有名である。



王丸勇名誉会員

他に有名なのは柔道家として歴史家としての先生である。柔道は講道館八段の腕前である、医学部の柔道部の学生は一度は投げ飛ばされたと聞いている。歴史は特に歴史上の人物、英雄豪傑の人間学的研究に深い関心を持たれ、特に昭和四十一年三月に久留米大学を定年で退職され名誉教授になられた後は病跡学の研究に専念され、日本病跡学会を創立されている。

私は昭和四十二年に久留米大学医学部に入学しており、直接授業を受けた事もなく、日本医史学会の会員ではあるが末席を汚す者で本当は王丸先生とは縁がないのであるが、私には王丸先生のサイン入りの病跡学の著書が贈呈されている。これは私の伯父中山弘道（故人・九州大学医学部第一内科同門会長）が旧制修猷館中学からの親友であった縁である（私の伯父が一年先輩）。ただ私の伯父は剣道の大将であって旧制五高に入学した。

話は少し逸れるが、伯父は五高時代に佐藤栄作内閣総理大臣と同期で親友であった。伯父が佐藤氏の兄貴分であったとの事で、佐藤氏が東大卒後国鉄に入り二日市駅の駅長時代は二人で中州や熊本で酒を飲んでいたとの事。また総理大臣になってから来福の折は伯父が下駄をはいてネクタイもせず「おい栄作!!」と出迎えるものだから最初はＳＰ（護衛警察）がピストルを構えたという逸話がある。王丸先生と伯父は九帝大では柔道の大将と剣道の大将として有名であったとの事である。前に記述したが王丸先生は柔道八段、伯父は小野派一刀流免許皆伝である。これだけだと二人とも恐そうに思えるが二人とも実にやさしい人柄なのであった。

三男二女、孫二人あり、二女の三野原勝子（旧姓王丸）女医と小生は親交があり、王丸先生が晩年三野原病院に入院中に小生が尋ねた際「中山の甥か、あいつは剣道部じゃったなあ、貴方も歴史が好きか、時々貴方の記事を見る」と言われたのが最後の会話であった。王丸先生の逝去は医史学会にとっても小生にとっても淋しい限りである。

最後に謹んで王丸勇先生の御冥福を祈り、御遺族の御多幸を心から念願いたします。